

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県・政令指定都市教育委員会名〔山口県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	周南市立岐陽中学校	22(2)	653
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	周南市立德山小学校	26(3)	677
	周南市立遠石小学校	16(2)	422
	周南市立岐山小学校	18(2)	471

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをすすめるのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	598	68.7	25.4	4.3	1.2	74.1	22.2	3.2	0.5	45.7	43.3	9.7	0.5	44.1	43.5	10.2	1.2
		前年②	599	70.3	24.4	4.7	0.7	77.5	19.5	2.8	0.2	47.1	42.7	9.2	1.0	32.6	47.7	16.4	3.0
		本年①	625	70.7	25.0	3.2	1.1	76.3	21.4	1.6	0.6	51.0	41.4	6.7	0.8	47.7	41.4	9.4	1.4
		本年②	615	68.8	26.5	3.7	0.9	73.0	23.9	2.2	0.8	43.7	45.0	9.8	1.5	33.2	51.1	14.5	1.3
	3	中2①	208	63.5	29.3	5.3	1.0	67.8	28.8	2.9	0.5	43.3	46.2	9.6	0.0	35.1	46.2	17.3	1.0
		中2②	206	72.8	24.8	1.9	0.5	78.6	18.9	1.9	0.5	47.6	43.7	8.7	0.0	31.1	47.6	17.5	3.4
		中3①	203	69.0	26.1	3.4	1.5	72.9	26.1	1.0	0.0	55.7	37.4	6.9	0.0	43.3	45.3	9.4	2.0
		中3②	206	71.8	24.3	2.4	1.5	75.2	21.8	1.5	1.5	48.5	40.8	4.9	1.5	33.0	49.0	16.0	1.9
	2	中1①	228	70.2	25.4	3.1	1.3	77.2	19.3	3.1	0.4	42.1	45.6	11.4	0.4	53.5	38.2	6.1	0.9
		中1②	224	67.9	25.0	6.7	0.4	75.0	22.3	2.7	0.0	36.2	50.9	12.1	0.9	28.6	48.2	19.2	3.6
		中2①	222	67.1	27.0	4.5	1.4	73.9	21.2	3.6	1.4	40.1	48.6	9.9	1.4	32.0	50.5	15.8	1.8
		中2②	219	67.6	25.6	5.5	1.4	72.1	22.8	4.1	0.9	39.7	48.4	11.0	0.9	28.8	55.3	14.6	1.4
	1	小6①	243	63.8	30.5	4.5	1.2	75.3	21.4	2.5	0.4	43.2	46.1	9.1	1.6	57.6	35.4	5.3	1.2
		小6②	245	70.6	25.7	2.0	1.6	75.1	20.4	3.3	1.2	38.8	47.8	12.2	1.2	59.2	35.9	3.7	0.4
		中1①	200	76.5	21.5	1.5	0.5	82.5	17.0	0.0	0.0	58.5	37.5	3.0	1.0	69.5	27.5	2.5	0.5
		中1②	190	66.8	30.0	3.2	0.0	71.6	27.4	1.1	0.0	38.4	45.8	13.7	2.1	38.4	48.4	12.6	0.5
小学校	高学年計	前年①	524	60.5	31.9	6.5	1.1	77.1	18.9	3.2	0.6	41.0	45.2	11.3	2.3	57.1	35.3	5.3	1.9
		前年②	518	65.4	28.4	4.4	1.7	74.3	21.8	3.1	1.2	40.2	47.1	11.4	1.7	59.7	34.2	5.2	1.0
		本年①	541	63.6	29.6	5.0	1.8	77.1	18.9	3.7	0.4	41.8	45.1	11.3	1.8	63.8	28.5	7.0	0.7
		本年②	532	61.1	30.5	6.0	2.4	72.9	22.9	3.0	1.1	44.9	44.2	9.6	1.3	57.9	33.6	7.1	1.3
	6	小5①	281	57.7	33.1	8.2	1.1	78.6	16.7	3.9	0.7	39.1	44.5	13.2	2.8	56.6	35.2	5.3	2.5
		小5②	273	60.8	30.8	6.6	1.8	73.6	23.1	2.9	1.1	41.4	46.5	10.6	2.2	60.1	32.6	6.6	1.5
		小6①	282	56.7	35.5	5.3	2.5	73.4	21.3	5.3	0.0	35.5	48.6	13.8	2.1	62.1	29.8	7.1	1.1
		小6②	279	54.1	35.5	7.5	2.9	67.0	28.0	3.6	1.4	42.3	45.5	10.0	2.2	53.0	37.6	7.2	2.2
	5	小5①	259	71.0	23.2	4.6	1.2	81.1	16.2	1.9	0.8	48.6	41.3	8.5	1.5	65.6	27.0	6.9	0.4
		小5②	253	68.8	24.9	4.3	2.0	79.4	15.8	2.4	0.8	47.8	42.7	9.1	0.4	63.2	29.2	7.1	0.4

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全年計	本年①	625	89.3	5.4	1.6	3.7	85.9	9.3	1.9	2.9	89.1	7.7	0.8	2.4	89.3	8.2	0.8	1.8
		本年②	615	89.4	7.8	1.5	1.3	82.0	14.8	1.6	1.6	90.1	7.6	2.0	0.3	85.0	12.5	1.6	0.8
	3	中3①	203	94.6	3.9	0.5	1.0	88.7	7.9	1.5	2.0	94.1	4.9	0.0	1.0	92.1	5.9	1.0	1.0
		中3②	206	95.1	4.4	0.0	0.5	85.0	12.1	1.5	1.5	92.2	6.8	1.0	0.0	88.3	9.2	1.5	1.0
	2	中2①	222	88.7	4.5	1.8	5.0	86.0	9.0	2.3	2.7	87.4	9.0	0.9	2.7	86.5	11.3	0.0	2.3
		中2②	219	90.4	7.3	0.9	1.4	83.1	14.6	1.4	0.9	88.6	7.8	2.7	0.9	81.3	16.9	0.9	0.9
	1	中1①	200	84.5	8.0	2.5	5.0	83.0	11.0	2.0	4.0	86.0	9.0	1.5	3.5	89.5	7.0	1.5	2.0
		中1②	190	82.1	12.1	3.7	2.1	77.4	17.9	2.1	2.6	89.5	8.4	2.1	0.0	85.8	11.1	2.6	0.5
小学校	高学年計	本年①	541	85.2	9.2	2.4	3.1	76.0	14.6	3.9	5.5	89.8	6.8	1.8	1.5	86.3	10.4	1.8	1.5
		本年②	532	77.4	14.5	3.2	4.9	69.5	21.1	4.3	5.1	81.8	12.6	3.2	2.4	75.9	19.4	2.6	2.1
	6	小6①	282	84.4	8.5	2.8	4.3	77.7	10.6	5.0	6.7	89.7	5.7	2.1	2.5	83.3	12.1	2.5	2.1
		小6②	279	80.6	10.8	2.2	6.5	69.9	20.1	4.3	5.7	83.9	11.1	1.8	3.2	77.4	16.5	3.2	2.9
	5	小5①	259	86.1	10.0	1.9	1.9	74.1	18.9	2.7	4.2	90.0	8.1	1.5	0.4	89.6	8.5	1.2	0.8
		小5②	253	73.9	18.6	4.3	3.2	69.2	22.1	4.3	4.3	79.4	14.2	4.7	1.6	74.3	22.5	2.0	1.2

※小学校は、連携校の合計

※実施時期の第1回(①)は5月ごろ、第2回(②)は12月ごろに実施したもの

※「オ」～「ク」の項目は、平成25年度から実施

※本年度第2回(②)以外は、「ブロック協議会資料」に記載した数値を記入

4 課題・目標・取組

課題	中学校入学後に授業がわからないと感じる生徒が増加し、他者とのかかわりが消極的になったり、受動的になったりする傾向がある。
目標	学び合いのある授業を通して学習意欲が高まり、学校生活にも積極性が出てくれば、集団の中で居場所や絆を実感できるようになる。
取組	生徒指導の3機能を生かした授業づくりを中心に、小中学校で共同実践や交流活動の充実を図るとともに、地域交流を推進する。

5 重点推進事項

小・中共通	①「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」の推進 ②他者とのかかわりのある体験活動の充実 ③小中連携・小小連携及び地域交流の一層の充実
中学校	①他者意識や自己存在感を高めるための授業における取組 ②9年間のつなぎを意識した小中連携の推進 ③地域とのつなぎを意識した交流事業の推進
小学校	①主体的な学びを生む授業の展開(徳山小・遠石小) ②「家庭学習の手引き」を生かした指導(岐山小) ③「聴く」ことを生かし「他者と交流する」授業の実践(徳山小・岐山小) ④系統性を意識した年間計画の見直し(徳山小) ⑤縦割り班活動による異学年交流の充実(遠石小・岐山小) ⑥コミュニティ・スクールを生かした地域交流活動の推進(遠石小・岐山小)

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<p>「学校が楽しい」という児童生徒の実感を確保できたこと。</p> <p>落ち着きと安心感のある生活に支えられた児童生徒の意欲の充実が図れたこと。</p>	<p>「学校が楽しい」と「みんなで何かをするのが楽しい」の項目に関する調査では、児童生徒の肯定的な回答が、毎回90%以上であった。</p> <p>「授業がよくわかる」の項目に関する調査では、中学校において学習内容が難しくなるにつれ、生徒の実感の低下が見られたが、小中で連携して取り組んだ授業改善により、1年目より2年目の方が意識の低下を抑えることができた。</p>

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<p>生徒が大きな期待をもって中学校に進学した後に、現実と向き合い実感する困難を乗り越えさせる支援の工夫。</p>	<p>中学1年と2年の中学校入学直後の調査とその後の調査の結果を比較したとき、入学直後のデータから期待の大きさや意欲の高まりが見られるが、その次の調査では実感の低下が見られる。</p> <p>特に、「授業がよくわかる」の項目に関する調査で、一番顕著に見られることから、学習内容が難しくなる中学1年生の2学期頃から「授業がよくわからない」という生徒が出てきて、そのマイナス感情が学習のみならず、集団生活においても意欲の減退に影響すると考えられる。</p>

7 2年間の調査研究の成果と課題

- ① 「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」の推進
 - 授業という1時間の学習の中で、何について学び、どんな力を習得するのかを授業の始めに「めあて」として示すことで、目的意識をもち、主体的に学習活動に取り組む児童生徒が増えた。
 - 授業の中で、学び合いの場面をつくることにより、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えをしっかりと聞いて自分の考えと比べたりすることができるようになり、他者意識を育むとともに、一人ひとりの生徒の思考を深めることができるようになった。
 - 小・中学校間、学年間でカリキュラムの系統性を意識した授業づくりが十分とは言えず、今後、それぞれの学校や学年で学習する内容を関連づけたり、指導法を継続したりすることで、児童生徒にとって学びやすい環境をつくること課題となる。
- ② 他者とのかかわりのある体験活動の充実
 - 行事の中で役割を遂行したり、協力したりすることの大切さを実感させることで、自己有用感や他者意識を育むことができた。
 - それぞれの学校や地域の中で児童生徒が交流する場面をつくることで、中学生は先輩としての自覚をもち、小学生は目標や今後の展望をもつことができ、児童生徒それぞれに、自尊感情を高めることができた。
 - 児童生徒の交流を図るためには、活動時間の調整や学校間の距離、打ち合わせ時間の捻出等の問題があるため、全ての連携校が同じように拠点校との交流を図ることが難しく、体験の機会に差が生まれる。
- ③ 小中連携・小小連携及び地域交流の一層の充実
 - 拠点校と連携校の教職員で共通の組織をつくったことにより、全ての教職員が小中連携や小小連携への参画意識を高めた。
 - 部会ごとに解決すべき課題を設定し、主体的に事業推進に向け運営することにより、共同実践の意識が高まった。

- 全ての学校で共通に実践することを絞り込み、学習規律と生活作法を2つずつ決め、それぞれの学校で指導する教職員が、形だけでなく理念を共通理解することにより、徹底を図ることができた。
- 小・中学校の教職員がそれぞれの学校でどのように子どもを育てているかを知り、互いの指導に系統性や継続性をもたせることにより、小学校の教職員は指導に対する意欲と責任が高まり、中学校の教職員は小学校の指導を引き継ぎ、質の高い高次な指導ができるようになった。
- それぞれの学校でコミュニティ・スクールを活用した地域交流を図っているが、地域の力を最大限活用し、地域の教育力を一層高めるために、それぞれの学校の学校運営協議会同士も連携することが今後の課題となる。

8 取組内容

(1) 月別実施内容

※「実施状況」の欄は、次の記号で取組内容ごとに示す。

- ・・・予定どおり実施
- △・・・時期を変更して実施又は実施予定
- ◇・・・計画書にはないが新たに実施
- ×・・・実施しなかった

<平成24年度>

月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	・中学校出前授業（徳山小6年）	◇	・第1回小中担当者会議 ・第1回連絡協議会	○ ○
5月	・第1回意識調査（全校） ・中学校出前授業（遠石小・岐山小）	○ ◇	・小中校長担当者会議 ・第1回意識調査（全学年）	◇ ○
6月	・中学校出前授業（徳山小6年）	◇	・第1回調査研究委員会 ・第2回小中担当者会議 ・先進校視察 ・国研実地調査（小・中）	○ ○ ○ ○
7月	・中学校の授業参観（全校） ・中学校出前授業（徳山小6年） ・児童による授業評価（全校）	○ ◇ ◇	・授業公開及び情報交換会 ・第3回小中担当者会議 ・地域清掃奉仕活動（全学年） ・小学校の授業見学 ・小学校でのあいさつ運動 ・生徒による授業評価	○ ○ ○ ◇ ◇ ◇
8月			・第1回合同研修会【小中合同】 ・県不登校フォーラムで発表 ・夏期学習会に小学校から支援	○ ◇ ◇
9月	・中学校体育祭参観	◇	・ブロック別協議会 ・第2回調査研究委員会 ・第4回小中担当者会議	○ ○ ○
10月	・中学校出前授業（遠石小） ・児童の中学校訪問（徳山小4・6年）	○ ◇	・小学校でのあいさつ運動	◇
11月	・中学校出前授業（遠石小・岐山小3年）	○	・第2回意識調査（全学年） ・第5回小中担当者会議	○ ◇
12月	・意識調査（全校） ・児童による授業評価（全校） ・中学校出前授業（徳山小1年）	○ ◇ ◇	・第2回意識調査（全学年） ・生徒による授業評価 ・合同研修会【小中合同】 ・第6回小中担当者会議	○ ◇ ◇ ◇
1月	・中学校に関する意識調査（全校）	○	・第7回小中担当者会議	◇
2月			・小学校での授業参観 ・第3回調査研究委員会 ・第2回連絡協議会 ・第8回小中担当者会議	○ ○ ○ ○
3月	・児童による授業評価（全校） ・中学校仮入学（全校6年）	◇ ○	・小学生による授業見学 ・生徒による授業評価	◇ ◇

<平成25年度>

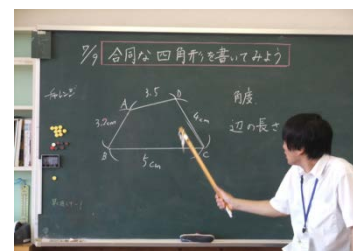
月	小学校における主な実施内容	実施状況	中学校における主な実施内容	実施状況
4月	・中学校出前授業（徳山小6年）	△	・小中担当者会議 ・小中連絡会議 ・各プロジェクトチーム主任会議	○ ○ ○
5月	・第1回意識調査（全校5・6年） ・中学校出前授業（岐山小6年）	○ ○	・第1回意識調査（全学年） ・第1回連絡協議会 ・小学校でのあいさつ運動（小・中）	○ △ △
6月			・第1回調査研究委員会 ・小学校参加の授業研究会 ・小学校でのあいさつ運動（小・中） ・各プロジェクト部会会議（小・中）	○ ○ △ ◇
7月	・中学校出前授業（徳山小6年） ・児童による授業評価（全校） ・中学校の授業参観（全校） ・サマースクール（全校） ・中学校出前授業（遠石小6年）	○ ○ ○ ○ ○	・授業公開、情報交換会（1年） ・小中担当者会議 ・小学校の授業見学 ・児童生徒による授業評価（小・中） ・地域清掃活動（全学年） ・各プロジェクト部会会議（小・中） ・小学校による夏期学習会支援	○ ○ ○ ◇ ○ ○ ◇ ◇
8月			・小・中合同研修会 ・各プロジェクト部会会議（小・中） ・小学校による夏期学習会支援	○ ○ ○
9月	・中学校体育祭参観（全校）	○	・第2回調査研究委員会 ・小中担当者会議 ・小学校運動会ボランティア	○ ○ ○
10月	・児童の中学校訪問（徳山小4・5年、岐山小4年）	○	・ブロック別協議会 ・小学校でのあいさつ運動	○ ○
11月	・中学校出前授業（岐山小）	○	・小中担当者会議	○
12月	・校内研究委員会（全校） ・授業研究会（遠石小） ・地域の人に学ぶ（遠石小・岐山小） ・授業公開、情報交換会（岐山小）	○ ○ ○ ○	・第2回意識調査 ・児童生徒による授業評価（小・中） ・小・中合同研修会 ・小中担当者会議	○ ○ ○ ○
1月	・中学校に関する意識調査（全校）	○	・小学校での授業参観 ・小中担当者会議	○ ○
2月	・授業公開、情報交換会（遠石小）	○	・小学生の授業参観・部活動見学 ・第2回連絡協議会 ・第3回調査研究委員会	○ ○ ○
3月	・児童による授業評価（全校） ・中学校仮入学（全校）	○ ○	・児童生徒による授業評価（小・中）	○

(2) 重点推進事項の実施状況

〔小・中共通〕

① 授業における学び合いの充実と小中連携を意識した指導の推進

小中合同のプロジェクトチーム「学習指導部会」による授業改善に向けた取組を推進し、小中のすべての授業で、「学習のめあて」の提示、児童生徒にとって分かる授業の提供、学び合いの学習における「姿勢を正して聞く」と「ていねいに話す」ことの定着を図る指導を行った。



また、授業交流や夏季休業中の学習会での支援交流を計画したり、小中で発達段階に応じ系統立てて作成した「家庭学習の手引き」を活用したりして、児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになってきた。

小中の全教職員が参加する合同研修会では、「生徒指導の3機能を生かした授業づくり」と「小中連携を意識した授業づくり」の視点による16本の模擬

授業大会の実施し、4校で取組を共有し、教職員も互いに学び合う機会をもった。

- ② 児童生徒が主体的に取り組む活動や行事の推進プロジェクトチーム「生徒指導部会」によるあいさつ運動の活性化として、中学生あいさつ大使が中学校だけでなく、小学校にも訪問し、あいさつ運動を実施した。



また、「履き物を揃える」ことを小中で共通して指導し、徹底を図っている。

プロジェクトチーム「特活・道徳部会」は、行事交流を計画し、中学校運動会に小学生を招待したり、中学生が小学校運動会の準備や片付けを手伝うボランティア活動を実施したりした。さらに、小学生が中学校文化祭の合唱コンクールリハーサルを見学し、レベルの高い合唱にふれる機会をもった。

「特活・道徳部会」が中心となって、「無言清掃」を小中で共通実践している。「無言清掃」を通して、児童生徒が自分を見つめ、感謝する心や誇りをもち、自立する人になるよう指導し、小学1年生から中学3年生まで静寂の中で、一心に清掃に打ち込む姿が4校で見られる。



[中学校]

- ① 全教職員による「わかる」（学習のめあての設定）「できる」（学び合いの場の設定）「つながる」（学習と生活の場のつながり）ことを具体化した250回以上の授業研究会を実施した。また、授業や行事においては、一人ひとりに役割を設定したり、他者とのかわりについて振り返りを行ったりすることで、生徒の自己有用感や他者意識を高める手だてを講じた。
- ② 小学校での出前授業や小・中学校相互の授業参観を積極的に行うとともに、長期休業中に小学校教員が中学校教員とともに中学生に対する学習支援を行う機会を設けた。その他、小中の教職員間での情報交換会やケース検討会議等を実施した。
- ③ 公民館や地域が主催する行事に生徒が参加できるよう広報啓発活動を行ったり、生徒が積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかけたりした。

[小学校]

- ① 「表現することで自分の思いや考えを深める授業づくり」にむけて授業を公開し、6年生の図工では対話型鑑賞指導を取り入れ、主体的に作品に係る鑑賞の授業を実施した。（徳山小）
- 研究主題と絡み合わせながら、主体的な学びを生む授業を展開し、「課題の明確化→一人学びの充実→全体での交流→振り返り」のサイクルを実践した。また、一人学びの活動の充実を図り、「友達に伝えたい、友達の考えを聞きたい」という意欲の高揚を図った。（遠石小）
- ② 「家庭学習の手引き」を活用し、学習内容の多様化や深化に力点をおいた指導を行い、児童が学習方法を工夫するよう支援した。全校一斉の「自主学習ノ

ート」展を開催することで、さらに学習の意欲や質を向上させることができた。
(岐山小)

- ③ 毎月、「聞く姿勢」についてアンケートを実施し、学び合いの質の向上を図った。(徳山小)
「伝えること」や「正しく聞きとること」を意識して他者と交流する場をもつよう授業展開を工夫した。教職員全員による一人一授業研究を行い、互いの授業改善につなげた。(岐山小)
- ④ 学年の学習につながりをもたせるため、系統性を意識した年間計画になるよう、見直しを図った。(徳山小)
- ⑤ 縦割り班を生かした異学年交流を計画し、児童の主体的な活動を充実させた。(遠石小)
活動エリアを校外に広げ、地域との交流を図る異学年交流を実施した。(岐山小)
- ⑥ 地域ボランティアと連携して、学力向上を目指した取組を行ったり、体験活動の充実を図ったりした。(遠石小)
地域の見守り隊や保護者とともに地域学習を行い、地域での生活安全の推進を図った。(岐山小)

9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活 動 内 容
4 (1) 事業全般		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業に関する活動の計画及び推進 ・校内組織内での連絡調整 ・学校間連携の連絡調整
4 (2)	小・中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・小中担当者会議での協議 ・合同研修や出前授業等、校種間交流の連絡調整 ・啓発資料(小中連携通信)の作成及び周知
	小・小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間の情報連携 ・各校の取組の連絡調整及び校内での周知
4 (3) データ収集、分析等		<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査等の実施及び集計、分析 ・授業評価等の実施及び集計、分析 ・分析結果に基づく改善案の作成
4 (4) 取組の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシート等を活用した各校での取組及び小中連携・小小連携の取組評価 ・調査研究委員会で出た意見に基づく改善案の作成
4 (5) 資料作成、広報等		<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料(小中連携通信)の作成及び周知 ・研究集録(リーフレット)の作成

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・児童生徒に学校生活の中で魅力を感じさせている各校教職員の取組を、小中連携通信「絆をつむぐ」を通して紹介することで、小中教職員の一体感を生み、9年間を見通した学習規律と生活作法の推進を図ることができた

- ・小中共通プロジェクトチーム（部会）のチーフ補佐役とし様々な取組を行い、次年度を見据えた小中連携計画を立てることができた。

<課題>

- ・小中の学習のつながりを意識した授業づくりの推進が不十分であったため、中学1年で学習のむずかしさを感じる生徒を、思うように減らすことができなかった。今後、学年のつながりや小中のつながりを意識した授業づくりを一層推進していく。
- ・地域行事の減少や児童生徒の生活の多様化から、地域とのかかわりの場を設定したり、より多くの児童生徒に機会を与えたりすることが十分にできなかった。今後、それぞれの学校の運営協議会で連携を取りながら、地域交流を深めるための工夫をしていく。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・関係4校の連携推進のための支援及び取組の評価と指導助言
- ・指定地域で指定終了後も継続できる組織づくり
- ・市内全域での小中連携教育の推進

〔課題と成果〕

- 教育委員会が拠点校や連携校とともに事業推進に積極的に携わり、4校の組織間の連絡調整を図ることで、連携の強化が図れた。
- 小中共通プロジェクトチーム（部会）の編成による全教職員の参画意識が高まり、小中連携が一層活性化した。
- 本地区での小中連携の取組をモデルとし、市で小中連携教育推進協議会を立ち上げ、市内全域で小中連携・小小連携を推進することができた。
- 事業2年目は、県での発表以外に、市で2回（8月、2月）本事業に関する発表を行うことができ、取組内容や成果についての周知が図れた。
- 全員参加の連携システムを構築できたが、関係校の教員が集まって話し合いをする時間を捻出することが容易ではない。
- 本校区の2つの小学校が岐陽中学校以外にそれぞれ別のもう一つの中学校に進学するといった実態があり、複数の中学校区での連携の整理が必要である。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・県教委関係各課と連携した支援
- ・県内すべての小中学校への魅力ある学校づくりに係る取組の成果等の普及・啓発

〔課題と成果〕

- 小中連携推進のモデル実践として、県内全ての学校に紹介することができた。
- 小中連携の更なる充実に向けて、各校の実態に即した取組の徹底が必要である。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考（主な職名等）
地域住民（各校）	4名	P T A会長等
学識経験者	1名	中学校コミュニティ・スクール会長
学校代表者（各校）	4名	校長
事業担当者（各校）	4名	教諭
教育委員会（山口県・周南市）	2名	指導主事

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・地域住民や学識経験者を委員として加えることにより、本事業の取組に直接携わっていない方から、率直な意見や評価をいただくことができ、事業の取組改善に役立てることができた。
- ・取組の内容について協議するだけでなく、児童生徒の意識調査等で得たデータ分析に基づいた議論を交わすことで、取組改善についての話し合いが、妥当性のあるものとなった。

<課題>

- ・なかなか時間が取れず、学校関係者以外の委員の方には、2年目の最後の調査研究委員会で児童生徒の実際の姿を見ていただくこととなったが、委員会の開催場所を毎回、別の学校で行うなどして、委員会を開催するたびに児童生徒の様子を確認することができるように仕組むことも有効であった。

12 作成資料等

<平成24年度>

- 魅力ある学校づくりリーフレット

<平成25年度>

- 魅力ある学校づくりリーフレット
- 「家庭学習の手引き」リーフレット

13 関連URL（※本事業に関連するものがあれば、ご紹介ください。）

<http://www.shunan.ed.jp/kiyochu/miryoku.pdf>

【問い合わせ先】

所属	山口県教育庁学校安全・体育課			電話	083-933-4680	
職名	指導主事	氏名	永久 剛	よみがな	ながひさ	つよし